

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	_____	
平成22年度医学博士授与者（前期）	2
○ 人 事	_____	
新任教授・新任准教授・新任講師	2
新任あいさつ	2
医学部（H22.7.1～23.2.1）		
腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座 教授 中山昌明		
医学部 循環器・血圧内科学講座 教授 小川一英		
医学部 消化器・リウマチ膠原病内科学講座 教授 渡辺浩志		
会津医療センター準備室（H22.4.1～H23.2.1）		
（血圧内科）教授 大田雅嗣		
（消化器内科）教授 入澤篤志		
（外 科）教授 齋藤拓朗		
（小腸・大腸・肛門科）教授 富樫一智		
（整形外科）教授 白土 修		
（糖尿病・代謝・腎臓内科）教授 塚本和久	※（ ）内は専門領域	
○ 諸 規 程 改 正	_____	
平成22年6月から平成23年1月までの諸規程の制定改廃関係	5
○ 役員会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	_____	
役員会	6
教育研究審議会	6
医学部教授会	7
看護学部教授会	7
○ 雑 報	_____	
寄附講座の開設について	7
医学部定員増の実施について	7
福島県立医科大学総合案内パンフレット日本語版及び英語版の発行について	8
学生の部活動報告（硬式庭球部）	8
平成22年度科学研究費補助金採択状況	9
平成22年度厚生労働科学研究費補助金採択状況	12

学 事

■ 平成22年度医学博士授与者〔前期〕

※該当者なし

人 事

(平成23年2月1日)

◎新任教授

採用 H22.9.1	会津医療センター準備室	富樫 一智
採用 H22.9.1	会津医療センター準備室	白土 修
採用 H22.10.1	医学部腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座	中山 昌明
採用 H22.12.1	会津医療センター準備室	塚本 和久
昇任 H23.1.1	医学部循環器・血液内科学講座	小川 一英
昇任 H23.2.1	医学部消化器・リウマチ膠原病内科学講座	渡辺 浩志

◎新任准教授

採用 H22.9.1	会津医療センター準備室	岩淵 真澄
昇任 H22.10.1	医学部器官制御外科学講座	小山 善久
昇任 H22.10.1	医学部小児科学講座准教授	橋本 浩一
採用 H23.1.1	医学部心臓病先進治療学講座	善久 精臣

◎新任講師

昇任 H22.10.1	医学部臓器再生外科学講座	伊勢 一哉
昇任 H22.10.1	医学部心臓血管外科学講座	高瀬 信弥
昇任 H22.11.1	医学部産科婦人科学講座	渡邊 尚文

■ 新任あいさつ

◇◇医学部 (H22.7.1～23.2.1)◇◇



教授就任のご挨拶に代えて －自己紹介と抱負

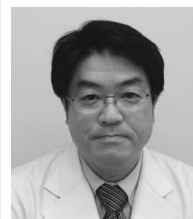
医学部
腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
教授 中山 昌明

この度、本学 腎臓高血圧・糖尿病代謝内分泌内科学講座・教授、腎臓高血圧内科部長を拝命しました中山昌明と申します。

私は昭和59年に東京慈恵会医科大学を卒業、その後、母校の腎臓・高血圧内科（旧第二内科）にて細谷龍男教授の

傘下、腎疾患を中心に臨床研鑽を積みました。この間、研究班長であった川口良人先生の薫陶を受けて腎不全治療、特に腹膜透析領域に関わるようになり、透析液のナトリウム組成やブドウ糖毒性の問題を検討してまいりました。平成17年に東北大学大学院医学系研究科に新設されました腎不全対策研究寄附講座に招聘された後は、尿毒素とブドウ糖毒性の共通性に注目し、同第二内科の伊藤貞嘉教授門下の先生方と共同で酸化ストレス関連の検討をすすめました。この間の成果として、水素を利用した抗炎症・抗酸化ストレス効果を有する透析システムの開発を産学共同研究として行い、製品化にこぎつくことができました。今の私が抱えているアカデミア領域での夢は、これらの成果を基に、腹膜透析の新しい治療システムを構築することです。腹膜透析は高齢化する本邦の中で重要な社会的使命を果たせる潜在力を有しています。しかし、透析液が抱えるいくつかの課題のため、医学専門家を納得させるには程遠いのが現状です。しかし、これを打開することが腎不全領域、さらには高齢社会の中での新しい展開に繋がると信じています。

さて、私の思い入れの根源は、自分が見てきた多くの患者の痛ましい姿です。そして、教科書の示す内容だけでは患者を救済することはできなかったという苦々しい思いです。未熟、浅学の私が教授として後進の方々のお役に立てるとするならば、それは、若い先生がこのあまりにも当たり前前の現実に、坦々と取り組むことを応援することと思っています。それが、病人救済のための医療を志向する医師を作る素地になると思うからです。これが福島県立医科大学への貢献に少しでも繋がれば幸甚です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



教授就任ごあいさつ

医学部 循環器・血液内科学講座
教授 小川 一英

平成23年1月1日付けで循環器・血液内科学講座教授を拝命致しました。私は昭和62年に本学を卒業し、当時の内科学第一講座に入局するとともに大学院に進学しました。大学院在学中に約6年間京都大学で研究生として研究生活を送りました。京大では白血病細胞が分化成熟する過程のシグナル伝達の仕事を中心に行ってきました。平成6年に帰局しましたが、当時は県内では造血幹細胞移植医療が全く行われておらず危機感を持ち、しばらくは移植医療の立ち上げにほとんどすべての労力を費やしました。移植医療はコメディカルも含めた典型的なチーム医療であり、多くの方々に助けられての船出でした。おかげさまで病棟のクリーンルームなどハード面も徐々に充実し、現在では年

間25例以上の移植を行えるまでになりました。研究面では、現在大学のTRセンターにおけるNEDOプロジェクトに携わっており、白血病症例の網羅的な遺伝子解析の仕事をしております。白血病の予後を予測するような遺伝子セットやマーカー遺伝子を見つけることを目標としています。県内は血液内科医の不足が深刻で、地域によっては住民の皆様に大きなご不便をおかけする事態となっております。血液内科は悪性腫瘍の診断から治療まで完結できる唯一の内科であることや、基礎と臨床の垣根が非常に低いなど、仕事はハードですが魅力も多い分野です。こうした血液内科の魅力を若い人たちに伝え、多くの血液内科医を育成し県内の血液診療を充実させていくことが私の最大の使命であると思っております。微力ではございますが、本学の発展と地域医療貢献のため竹石恭知主任教授と協力しながら全力で頑張りたいと思います。今後ともご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。



教授就任ごあいさつ

医学部
消化器・リウマチ膠原病内科学講座

教授 渡辺 浩 志

平成23年2月1日付をもちまして、消化器・リウマチ膠原病内科学講座教授（主任教授：大平弘正先生）を拝命致しました。私は、平成2年に本学を卒業後、第二内科へ入局すると同時に大学院へ進学致しました。大学院在学中は、2年間第二生化学講座で免疫学の研究を行い、大学院修了後には市中病院の勤務を経て平成8年から11年まで米国 Medical University of South Carolina の Division of Rheumatology and Immunology で博士研究員として勤務致しました。帰国後はリウマチ膠原病を専門とし、診療、教育、研究に努めてまいりました。

近年の医学の進歩に伴い、医療はより専門化・細分化されておりますが、リウマチ膠原病は多臓器疾患でありますので、他科との連携は必須であります。各専門領域に垣根を作らず、協力し合って診療にあたる体制を築きたいと考えます。また、教育においては、病歴・視診・聴診・触診という内科診断学の基本を大切に、疾患の病態、鑑別、治療について自ら考え、解決策を見いだせるよう、指導していきたいと思っております。研究におきましては、これまで進めてきた難病における特異的診断マーカーの探索をはじめ、臨床に有用なテーマで研究をさらに続けていきたいと存じます。微力ではございますが、福島県の医療および福島県立医科大学の発展のため誠心誠意尽力したいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

◇◇会津医療センター準備室（22.4.1～23.2.1）◇◇

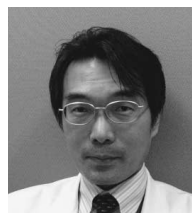


教授就任ごあいさつ

会津医療センター準備室（血液内科）

教授 大田 雅 嗣

昨年4月1日付けで会津医療センター準備室（血液内科）教授を拝命し、県立会津総合病院において血液内科の診療を開始いたしました。本年1月末現在、約160名の新規症例を近隣の医療機関からご紹介いただき、適切な診断・治療を行うことで血液内科の認知度も日増しに上がって参りました。骨髓穿刺・生検検査は延べ120件を越え、骨髓、リンパ節の病理診断では本学の病理病態診断学講座の多大なるご協力をいただいております。さらにPET診断・放射線治療は限られた医療資源を活用するため病病連携を推進しております。また無菌室のほか、4台のアイソレータを設置し治療環境整備を進め、外来化学療法もコメディカルスタッフの協力のもと安全に実施しております。2年後には新施設で会津医療センターとして再出発となりますが、地域医療の新たなモデルを構築していくため、教育・研究にも力を注ぎ、本学の循環器・血液内科学講座をはじめとした諸先生のお力もお借りして会津の血液内科学の要となるよう努めて参ります。この4月には本学出身の角田三郎医師が准教授として参画する予定で、より充実した診療体制になるものと確信しております。また近々日本血液学会研修施設として認定されますので、専門医をめざす若手医師の参加をいつでも歓迎いたします。ともに学びながらお互いの資質を高めていきたいと考えております。医大人としての自覚を高め、業務に邁進して参りますので今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。



教授就任ごあいさつ

会津医療センター準備室（消化器内科）

教授 入澤 篤 志

平成22年4月1日付けを持ちまして、福島県立医科大学会津医療センター準備室教授（消化器内科）を拝命致しました。現在は、県立会津総合病院に勤務し地域医療に携わりながら、同センター開設準備にあたっております。私が生まれ育ちました会津若松の地で、新たな大学附属病院の開設という大きなプロジェクトに携わらせて頂く事は私に取りまして非常にエキサイティングであり、着任して11ヶ月が経過しましたが刺激的な毎日を送っております。

私の専門は消化器病学および消化器内視鏡学であり、特に胆膵疾患や上部消化管疾患に対する内視鏡的診断および治療を得意としております。昨年4月の着任以来、徐々にではありますが近隣の先生方から患者様をご紹介いただくようになりました。例えば、これまで当院では施行されておられませんでした超音波内視鏡（胆膵疾患や消化管粘膜下病変の精査に極めて有用な検査の1つです）も検査数が順調に増加しています。新しいことの立ち上げに困難はつきものですが、幸いにも諸先生方の温かいご理解を頂き、また素晴らしいコメディカルにも恵まれ思いのほか良好な立ち上がりでした。現在では他施設から見学・研修に訪れる若い先生も増え、自分自身の刺激にもなっております。今後も新しい検査・治療を積極的に行っていきたいと思っております。

福島県立医科大学会津医療センターが開設した暁には、診療・教育・研究という大学附属病院本来の大きな使命を果たすべく、更に精進したく存じます。「会津から世界へ」が私の目標です。大言壮語と思われるかもしれませんが、世界標準の医療そして世界でも先進的な医療をリアルタイムで取り入れながら、新しい医療を会津医療センターから世界に向けて発信できるよう取り組んでいきたいと思っております。このことは会津医療圏への多大な貢献につながると信じております。

今後ともご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。



教授就任ごあいさつ

会津医療センター準備室（外科）

教授 齋藤 拓朗

平成22年4月から会津医療センター準備室教授（外科）を拝命いたしました。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

私は昭和60年本学を卒業と同時に外科学第一講座（現・臓器再生外科学講座）へ入局し、消化器外科学、特に肝胆膵領域癌の外科治療と移植外科学に関する診療と研究を行ってきました。こうした臨床経験と研究を通じ、最近の外科手術症例は高齢化の傾向が強いことを実感しております。さて、わが国の平均寿命はこの20年で男性は3.1歳、女性は4.7歳延長しましたが、会津地方の年齢別人口分布は、全国平均と比較して20～40歳代が少なく65歳以上が多いという特徴を有し、まさにわが国の将来の人口分布を先取りした様相を呈しています。「会津医療センター」は福島県立医科大学附属病院として高齢化が進む会津地方の地域特性に対応した質の高い高度な医療を提供すべく設立されました。本センターにおける外科学講座は会津地方における前記の特徴を踏まえ、高齢者に対する外科治療の充実を目

標として診療と研究を進め、世界へ向けて情報を発信しうる施設を目指したいと考えています。また、広く人材を求めるとともに初期・後期臨床研修医の受け入れを積極的に行い、会津地方を含む福島県全体の継続的な医師の確保と地域への定着につなげるべく努力いたします。



教授就任ごあいさつ

会津医療センター準備室
（小腸・大腸・肛門科）

教授 富樫 一智

昨年9月1日付で会津医療センター準備室教授の拝命を受けました。私は、1960年喜多方市生まれ、会津高校30期卒、自治医大1986年卒（9期生）です。自治医大卒業生としての義務年限は県立宮下病院で果たし、その後は自治医大で研鑽を積んでまいりました。このたび、会津医療センターが発足することを伺い、お世話になることを決意した次第です。私は外科学会の指導医の資格を持っておりますが、現在は外科手術を離れ、消化器内視鏡に専念しております。会津医療センターでは、内視鏡に重点を置いた形で、小腸・大腸・肛門科を立ち上げることになりました。小腸・大腸・肛門科では、診療・研究・教育の充実を図ることを最大の目標に、一生懸命に努力していく所存です。診療では、単に高度先進医療を目指すのではなく、“医療の均てん化”を図る方向で、高水準の医療を提供したいと思っております。ポリープの診断を瞬時に可能とした画像強調高画素内視鏡・全小腸の観察を可能としたダブルバルーン内視鏡／カプセル内視鏡・内痔核を切らずに直す注射療法（ALTA療法）はすでに導入し、好評を博しています。地域住民の方々のお役にたてることがあれば、積極的に取り組んでまいります。研究では世界を目指し、教育では若手医師教育に力を注ぐことを、目標に掲げ、邁進していく所存です。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



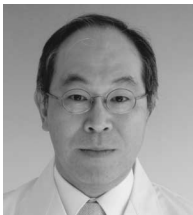
教授就任ごあいさつ

会津医療センター準備室（整形外科）

教授 白土 修

皆様、はじめまして。私は昨年（平成22年）9月1日付で、会津医療センター準備室教授（整形外科）を拝命致しました。自己紹介を兼ね、今後の抱負なども含め御挨拶

申し上げたいと存じます。私は県立磐城高校を卒業後、昭和56年に北海道大学医学部を卒業致しました。卒業後、母校の整形外科講座に入局し、約20年間主に北海道大学病院で研鑽に励みました。その後、埼玉医科大学に約6年間勤務し、現在に至っております。福島県で暮らすのは約35年ぶりで、いわゆる「Uターン」組の一人です。専門は、脊椎・脊髄外科とそのリハビリテーションです。頭蓋・頸椎移行部から胸・腰・仙椎まで、全ての疾患・外傷に対して、あらゆる手術手技を行います。特に、脊椎内固定器具（脊椎インストゥルメンテーション）を用いた脊椎矯正・再建手術を得意としております。リハビリテーションの分野では、運動療法を始めとして、腰痛に対する保存療法を得意としております。「腰みがき」の造語を作成し、マスコミの協力も得て、一般の方々に腰痛に対する「姿勢」と「運動」の重要性を唱えて参りました。基礎的研究では、米国留学時代2年間も含め、一貫して脊椎のバイオメカニクス（生体工学）を研究して参りました。工学部、一般企業との共同研究も多数手掛けております。教授就任に際して私は、次の3つの目標を掲げました。1) 会津医療センターを県内はもちろん、日本、世界で認知される施設として確立させる、2) 若い整形外科医、特に将来有望な脊椎・脊髄外科専門医を育てる、3) 何か一つでも、世界に誇れる「新しいもの」を創造する。この3つの目標を達成出来るよう、誠心誠意努力する所存です。私の北大時代、厳しくも温かい御指導を受けた金田清志北海道大学名誉教授は世界的に高名な脊椎・脊髄外科医ですが、喜多方市のご出身であり、これも何かの縁と感じ入っております。今後とも、皆様方の叱咤激励を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



教授就任ごあいさつ

会津医療センター準備室
(糖尿病・代謝・腎臓内科)

教授 塚本和久

平成22年12月1日より会津医療センター準備室、糖尿病・代謝・腎臓内科教授を拝命いたしました。

私が専門とする糖尿病および脂質異常症は生活習慣病の中核をなす疾患であり、加齢とともにその罹患率が高くなっていき、特に日本の高齢化社会のモデルとなるような会津地域では全国レベル以上に患者数が著増していると考えられます。これらの疾患は、多数の薬剤がこの20年間に医療現場で用いられるようになり、一見治療が以前より容易となったと考えられがちですが、近年のエビデンスが示すように、薬剤の適正な使用・患者教育を怠ると患者のQOLを低下させる結果を招く可能性があります。それゆえ、

最新のエビデンスに基づきつつ一人ひとりの患者さんとのコミュニケーションを重視した診療を行うとともに、地域の先生方との風通しのよい医療連携を築きながら先生方の啓発活動にも努めて、地域医療に貢献したいと思っております。また、学生教育、初期研修医・後期研修医教育にも積極的に参画し、生活習慣病を専門とする医師の育成に努めたいと考えております。

さて、さらに良い医療を行うための研究は日進月歩、世界中で行われており、私の専門とする生活習慣病もそれにとたがうことはありません。実際、動脈硬化症を抑制するための新たな多数の薬剤開発の研究も行われており、それらは多くの基礎研究・臨床研究の土台があってこそ成り立つものです。この会津医療センターでも、福島県立医大本院の研究室・先生方と連携しつつ独立した研究を進展させてまいる所存です。そして、将来会津地域から全国に情報を発することができるよう医療センターを目指したいと考えております。

諸規程改正

■ 平成22年6月から平成23年1月までの 主な諸規程の制定改廃関係

- 「公立大学法人福島県立医科大学職員服務規程」の一部改正（平成22年7月28日制定・平成22年7月28日施行）
飲酒運転等の道路交通法違反関係分の基準見直しのため、事故等の報告などの改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員就業規則」の一部改正（平成22年7月28日制定・7月28日施行）
飲酒運転等の道路交通法違反関係分の基準見直しのため、停職期間の限度を14日から6月に延長するなどの改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正（平成22年8月1日制定・平成22年8月1日施行）
修学前の乳幼児を自宅で養育している職員の配偶者等が急病や冠婚葬祭等の理由で、一時的に保育ができなくなった場合に、職員の抱える負担を軽減するために、託児所「すぎのこ園」で一時保育事業を実施することとしたため、一時保育料の新設などの改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正（平成22年8月2日制定・平成22年4月1日より適用）
超過勤務手当の割増支給の基準となる一箇月60時間のカウントに、勤務時間規程第4条の規程により、あらかじめ割り振られた1週間の正規の勤務時間を超えて勤務した時間を加えるとともに、60時間を超えた割振り変更

前の正規の勤務時間を超えて勤務した時間に対し、第25条に規定する勤務1時間当たりの給与額に100分の50の割合を乗じて得た額を超過勤務手当として支給するなどの改正を行いました。

- 「福島県立医科大学看護学部教員適任者選考規程」の一部改正
(平成22年8月20日制定・8月20日施行)
看護学部教員選考委員会の委員に副看護学部長を充て職として規定する改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正
(平成22年9月1日制定・9月1日施行)
「会津医療センター担当理事」の所掌業務の追加により担当名を「地域医療担当理事」へ変更する改正を行いました。
- 「福島県立医科大学附属病院総合医療情報システム運用管理要綱」の一部改正
(平成22年9月1日制定・9月1日施行)
監査内規の制定、監査責任者の任期を2年に定める等総合医療情報システムに係る監査体制の整備に関する改正を行いました。
- 「福島県立医科大学主催学会負担金助成要綱」の制定
(平成22年9月21日制定・平成22年4月1日から適用)
本学で主催する学会の主催者に対し、両学部予算委員会に諮り、理事長が予算の範囲内で助成することを定めました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員特殊勤務手当細則」の一部改正
(平成22年10月1日制定・10月1日施行)
出産後新生児集中治療室に入院する新生児を担当する業務に従事する医師に対して、1人1新生児当たり10,000円を支給する「新生児担当医師手当」を新設する改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」及び「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正
(平成22年10月1日制定・10月1日施行)
外科系臓器別再編に伴い、「消化器、一般外科、低侵襲・先端治療科」の診療科名を「肝胆膵・移植外科、消化管外科」へ変更する改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学理事長選考規程」の一部改正
(平成22年10月6日制定・10月6日施行)
意向投票の有資格者に、「事務局及び附属病院事務部の主任主査及び係長」が加えられるなどの改正を行いました。
- 「医学部教員（准教授、講師）の採用及び昇任の手続きについて」の一部改正
(平成22年10月20日制定・12月1日より適用)
医学部教員（准教授、講師）の資格審査委員会における審査基準を定める改正を行いました。
- 「福島県立医科大学学則」の一部改正
(平成22年11月10日制定・平成23年4月1日から施行)

平成23年度より医学部医学科の学生定員を105名から110名に増員する改正を行いました。

- 「公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程」の一部改正
(平成22年12月1日制定・12月1日施行)
法人役員の期末特別手当の期末別手当基礎額に乘じる割合を、12月期末特別手当について、160/100から145/100にする改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正
(平成22年12月1日制定・12月1日施行)
55歳を超える職員について、給料月額及び特別調整額に減額0.9%を減じて支給すること。また、職員期末勤勉手当の支給割合を年間0.15月分（再雇用職員は0.1月分）引き下げる改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正
(平成23年1月1日制定・1月1日施行)
インプラント義歯、樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法、超音波骨折治療法等、附属病院の自由診療に関する諸料金の改定の改正を行いました。
- 「福島県立医科大学大学院学則」の一部改正
(平成23年1月11日制定・平成23年4月1日施行)
大学院医学研究科博士課程において10月入学制度を創設することに伴い、大学院入学時期について、再入学及び医学研究科博士課程については、後期の始めとすることを可能とした改正を行いました。

役員会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会

■ 役員会

【平成22年10月27日 第8回役員会】

- ・寄附講座の設置
次のとおり、新たな寄附講座を設置することが承認された。

- (名称)
心臓病先進治療学講座
- (設置期間)
平成23年1月1日～平成27年12月31日（5年間）
- (研究テーマ)
心臓病に合併する睡眠時無呼吸症候群の診療体制の構築

■ 教育研究審議会

【平成22年9月28日 第2回教育研究審議会】

- ・平成24年度看護学部入学者選抜募集人員について

雑 報

「平成24年度看護学部入学選抜募集人員について、3年次編入学定員については、志願者が減少傾向にあり、入学者は平均6名から7名にとどまっていることや、全国的に看護系大学が増加しており、今後も志願者の増加は見込めないことから、募集定員を現在の10名から4名減の6名にする。社会人入試については、志願者が増加傾向にあり、特に、4年制大学卒業者の志願が多く、基礎学力も高いことを踏まえ、社会人を積極的に受け入れることを目的に、募集人員を現在の若干名から4名と明確にする。その結果、3年次編入学をのぞく入学定員は、80名から4名増の84名とする。」の案が審議され、原案のとおり承認された。

【平成22年12月17日 第3回教育研究審議会】

- 福島県立医科大学大学院学則及び福島県立医科大学学則の一部改正について

「大学院医学研究科博士課程の入学時期について、これまで学部学生と同様、4月入学のみとなっていたが、海外からの入学希望者に対応するとともに、臨床研修修了後において、博士課程への入学準備期間の確保を図ることにより、入学の機会を増やし、もって大学院の充実化を促進することを目的に、大学院医学研究科博士課程における10月入学制度を創設する。」の案が審議され、原案のとおり承認された。

■ 医学部教授会

【平成22年11月17日 定例教授会】

- 医学部教員委員会委員の選任について
次のとおり選任された。
橋本教授（生化学講座）
平岩教授（法医学講座）
大平教授（消化器・リウマチ膠原病内科学講座）
穴戸教授（放射線医学講座）
小林教授（自然科学講座）

■ 看護学部教授会

【平成22年8月3日 人事に関する臨時教授会】

- 教員の選考について
生態看護学部門（老人看護学）の公募により坂本祐子氏が准教授として信任された。

【平成22年9月21日 定例教授会】

- 福島県立医科大学看護学部研究予算委員会設置要綱の一部改正について
看護学部研究予算委員会要綱の審議事項に本学主催学会負担金助成についての審査を加える改正を行った。

■ 寄附講座の開設について

本学では次のとおり、寄附講座を開設しました。

- 名 称
心臓病先進治療学講座
- 設置期間
平成23年1月1日～平成27年12月31日（5年間）
- 寄附者名
フクダ電子株式会社
- 設置場所
福島県福島市光が丘1番地
(公立大学法人 福島県立医科大学内)
- 研究体制
准教授：義久精臣
助 教：(任用予定)
- 研究テーマ：
「心臓病に合併する睡眠時無呼吸症候群の診療体制の構築」

■ 医学部定員増の実施について

1 医学部定員増

「新成長戦略」等を踏まえ、平成23年度からの医学部入学定員増を容認することが文部科学省から通知されたことから、さらなる医学部入学定員増について県とともに検討し、また、5名の入学定員増について文部科学省等と協議したところ、認められました。

このため、平成22年11月10日付けで文部科学大臣あて学則の変更に係る届出を行い、所定の手続を完了しました。

これにより、平成23年度から平成29年度までの入学定員は110名となりました。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入学定員	95人	100人	105人	110人	110人	110人
収容定員	495人	515人	540人	570人	600人	630人

	平成26年度	平成27年度	平成28年度 ～ 平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
入学定員	110人	110人	110人	95人	95人	90人
収容定員	645人	655人	660人	645人	630人	610人

	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	85人	85人	85人	85人	85人
収容定員	585人	560人	535人	525人	515人

2 推薦入試の定員増

医学部定員増に伴い、平成23年度からは推薦入試の募集定員（地域枠）を35人以内から40人以内に拡大するとともに、既卒者を含む県内特別枠7人程度を12名程度に拡大し、出願資格に「将来福島県内の公的医療機関等に勤務して地域医療を担うという強い意欲と情熱を持つ者」、「福島県が平成19年10月に条例を制定した福島県緊急医師確保修学資金の貸与を受ける意志のある者」という要件を設け、県内定着の促進を図ることとしました。

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備 考
県内枠 (A枠)	新卒	5名程度	23名程度	21名程度	21名程度	
	既卒	0	0	7名程度	12名程度	県緊急医師確保修学資金（第一種）貸与
県外枠 (B枠)	新卒	3名程度	7名程度	7名程度	7名程度	県緊急医師確保修学資金（第一種）貸与
	既卒	0	0	0		
計		8名以内	30名以内	35名以内	40名以内	

■ 福島県立医科大学総合案内パンフレット日本語版及び英語版の発行について

大学総合案内パンフレット日本語版を平成22年6月に作成・刊行しました。内容は、本学の理念・学部紹介・教育体制・附属病院概要・施設紹介等本学の取り組みについて掲載しています。また、平成23年2月には英語版を刊行しました。

なお、本学ホームページにPDF版を掲載しています。
※今回作成・刊行するにあたり関係者の方々には御協力を賜り感謝申し上げます。この誌面をお借りしてお礼申し上げます。（企画財務課）

■ 学生の部活動報告

硬式庭球部

医学部3年 羽 生 健 治

福島県立医科大学硬式庭球部主将の羽生健治です。今回は部活動の盛んな福島県立医科大学の名でも最も規模の大きい部活の一つである硬式庭球部について紹介させていただきます。

僕たち硬式庭球部は部員数が男子27名、女子35名の計62

名という医大でも大規模な部活です。練習は毎週火曜、木曜、土曜に部員全員で行っています。北医体、東医体、リーグ戦での勝利を目指し日々がんばっています。その他、東北学生や福島県学生といった個人戦にも出場しています。昨年は男子が東医体で福島県立医科大学の男子史上初優勝を成し遂げることができました。たくさんいる部員がばらばらになることなく、一致団結して最後まで戦い抜けたからこそ得られた最高の結果だったと思っています。また、東北学生では前男子主将の角田宇司さんがシングルス春ベスト8、夏準優勝というすばらしい結果を出しインカレに出場しました。部活全体としても部員全員が目を見張るほどテニスが上達し、テニスという競技を楽しめるようになってきました。

今年も昨年以上に努力し、東医体男女アベック優勝、東北地区リーグ男子1部昇格、女子2部昇格という大きな目標を実現させたいと思います。

最後になりますが、硬式庭球部が何不自由なく活動していただけるのは、顧問の渡辺毅教授、監督の武田悦男先生をはじめOB・OGの方々のご協力とご支援があってこそだと思っています。この場をお借りしお礼を述べさせていただきます。今後も部員一同、硬式庭球部の更なる発展のため努力していきます。これで僕たちの部活紹介を終わりたいと思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



編集発行 公立大学法人福島県立医科大学
事務局企画財務課
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024 (547) 1013 FAX 024 (547) 1991

■ 平成22年度 科学研究費補助金採択状況 (研究代表者)

所属	職	氏名	研究種目名	課題番号	研究課題名
医学部	教授	八木沼洋行	基盤研究 (C)	20500311	サブグループ特異的運動神経細胞死における Hox 遺伝子の関与の解明
医学部	助教	増田 知之	基盤研究 (C)	21590218	脊髄特異的な新規遺伝子群の感覚神経ネットワーク形成における機能の解析
医学部	教授	和栗 聡	基盤研究 (B)	21390055	ポストゴルジ交通網における積み荷タンパク質の品質管理機構とその異常
医学部	教授	和栗 聡	挑戦的萌芽研究	21659045	オートファジー現象における隔離膜形成・伸張機構の微細構造解析
医学部	准教授	山本 雅哉	基盤研究 (C)	21590343	線維芽細胞増殖因子 (FGF) 21の代謝機能発現機構の解析
医学部	教授	狭間 章博	基盤研究 (C)	20590211	リンソーム安定化によるネクロシス性細胞死防御
医学部	教授	香山 雪彦	基盤研究 (C)	21500307	覚醒状態及び覚醒系ニューロンに対して睡眠中枢が果たす生理的役割の解明
医学部	講師	高橋 和巳	基盤研究 (C)	20500288	睡眠・覚醒時のヒスタミンニューロンが示す活動変化の制御メカニズムの解明
医学部	助教	片山 規央	若手研究 (B)	21791140	統合失調症動物モデルにおける陰性症状発現機序の解明
医学部	教授	藤田 樹三	基盤研究 (B)	21390086	補体レクチン経路は第二経路の活性化に関与する
医学部	准教授	遠藤 雄一	基盤研究 (C)	22570144	パターン認識分子 H-フィコリンの自然免疫における役割
医学部	講師	関根 英治	研究活動スタート支援	21890204	ループ腎炎発症に CD4 陽性 T 細胞が直接関与する
医学部	教授	木村 純子	基盤研究 (C)	21590288	臓器線維化に関与する線維芽細胞の Na ⁺ /Ca ²⁺ 交換輸送体の研究
医学部	講師	坂本 多穂	若手研究 (B)	22790257	高コレステロール血症治療薬スタチンによる横紋筋融解症発症機序の解明
医学部	教授	錫谷 達夫	基盤研究 (C)	20591923	培養によらない細菌・真菌の定量と菌種同定法を用いた常在細菌叢と疾患の解析
医学部	助教	生田 和史	若手研究 (B)	22791034	先天性サイトメガロウイルス感染が顕性感染へと至るリスク判定法の開発
医学部	主任医技師	西山 恭子	奨励研究	22990028	培養によらない迅速な真菌の定量・同定の試み
医学部	准教授	杉野 隆	基盤研究 (C)	20590406	痛転移の多様性に対応するモデルの作製と分子メカニズムの解明
医学部	助教	富川 直樹	若手研究 (B)	22790830	脳梗塞時の虚血障害部位に発現する laminin alpa1 の機能的意義の解明
医学部	教授	福島 哲仁	基盤研究 (C)	21590657	パーキンソン病発症への重金属の関与を探索する疫学及び実験研究
医学部	准教授	早川 岳人	基盤研究 (C)	20590515	循環器疾患の登録を実施している地域住民の生活習慣と認知機能低下に関する追跡研究
医学部	講師	神田 秀幸	若手研究 (A)	22689023	国際比較可能な学校における喫煙対策の実態に関する全国調査研究
医学部	准教授	後藤 あや	若手研究 (A)	21689019	妊娠期からの早期育児支援プログラムの科学的効果検証
医学部	博士研究員	横川 博英	若手研究 (B)	20790445	高血圧患者の降圧目標達成状況および治療中断の関連要因の解明に関する研究
医学部	教授	平岩 幸一	基盤研究 (C)	22590639	緊縛性ショックマウスにおける多臓器不全因子の分子生物学的解析
医学部	助教	加藤 菜穂	若手研究 (B)	20790464	下肢虚血再還流障害の病態生理解析
医学部	教授	竹石 恭知	基盤研究 (C)	21590835	抗老化蛋白 SMP30を用いた心不全の新規治療戦略
医学部	准教授	小川 一英	基盤研究 (C)	22590790	心アミロイドーシスに対する ICD 併用自己未梢血幹細胞移植の有用性の検討
医学部	准教授	七島 勉	基盤研究 (C)	22591044	新たな手法による PNH クローンの拡大抑制に関する基礎的検討
医学部	准教授	義久 精臣	若手研究 (B)	21790737	慢性心不全における睡眠時無呼吸症候群に対する順応性自動制御換気療法の効果の検討
医学部	助教	野地 秀義	基盤研究 (C)	22591067	PNH におけるペプチドワクチンによる免疫療法の可能性
医学部	助教	杉本 浩一	若手研究 (B)	22790718	血管炎症における新規分子 MT 1-MMP の関与
医学部	教授	大平 弘正	基盤研究 (C)	21590854	プロテオミクスを用いた自己免疫性肝炎における自己抗体の網羅的解析

所 属	職	氏 名	研究種目名	課題番号	研 究 課 題 名
医学部 消化器・リウマチ膠原病内科学講座	医監兼教授	入澤 篤志	基盤研究 (C)	21590875	膝蓋予防としての慢性膝炎早期診断法の確立-マイクロバブル造影超音波内視鏡検査-
医学部 消化器・リウマチ膠原病内科学講座	講 師	片倉 馨子	若手研究 (B)	22790657	TLR9 による B 細胞の機能調節と炎症性腸疾患治療への対応
医学部 消化器・リウマチ膠原病内科学講座	助 教	高橋 敦史	若手研究 (B)	21790678	非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) 病態における性ホルモンの影響の解析
医学部 消化器・リウマチ膠原病内科学講座	助 教	高木 忠之	若手研究 (B)	22790658	膝蓋に対する超音波内視鏡を用いた微量放射線局注療法と化学療法併用の試み
医学部 消化器・リウマチ膠原病内科学講座	博士研究員	横川 順子	若手研究 (B)	22790659	NASH 病態における炎症性マクロファージ/クッパー細胞と制御性 T 細胞の関与の解明
医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座	教 授	中山 昌明	基盤研究 (C)	20590941	生活習慣病を基礎とする慢性腎臓病抑制対策に関する基礎的検討
医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座	准教授	佐藤 博亮	基盤研究 (C)	21592142	閉経後のメタボリック症候群病態形成におけるアディポネクチンとレジスタチンの役割
医学部 神経内科学講座	教 授	宇川 義一	基盤研究 (B)	22390181	新しい磁気刺激 (QPS) による神経疾患治療の開発: その基礎生理と臨床応用
医学部 神経内科学講座	助 教	望月 仁志	基盤研究 (C)	21500308	神経難病治療を目指した反復磁気刺激法の作用機序に関する光トポ・電気生理による研究
医学部 神経内科学講座	助 教	榎本 雪	基盤研究 (C)	21591116	不均一連発磁気刺激のてんかんに対する臨床応用およびその生理学的検討
医学部 神経内科学講座	助 教	小林 俊輔	研究活動スタート支援	22800052	神経ドーパミン系が意思決定に及ぼす影響
医学部 臓器再生外科科学講座	教 授	後藤 満一	基盤研究 (B)	22390248	細胞死回避による免疫寛容誘導の機構解明とその展開
医学部 臓器再生外科科学講座	教 授	後藤 満一	挑戦的萌芽研究	22659247	新規糖鎖解析システム (SMMSE) を用いた癌特異的糖鎖抗原の探索
医学部 臓器再生外科科学講座	講 師	伊勢 一哉	基盤研究 (C)	22591412	細胞組織工学を用いた膝蓋細胞シートの多次元化によるインスリン分泌機能の構築
医学部 臓器再生外科科学講座	助 教	山下 方俊	基盤研究 (C)	20591227	若年発症 1 型糖尿病に対する再生膝蓋移植-テイスシユエンジニミアリングの利用
医学部 臓器再生外科科学講座	助 教	見城 明	基盤研究 (C)	20591636	膝蓋の治療抵抗性に関する樹状細胞を中心とした細胞性免疫学的検討
医学部 臓器再生外科科学講座	助 教	斎藤 隆晴	基盤研究 (C)	22591527	細胞死にもなう HMGB-1 を標的とした移植片長期生着効果の誘導
医学部 臓器再生外科科学講座	教 授	横山 斉	基盤研究 (C)	20591651	心拍動手術における 3 次元デジタル解析システムを用いた手術野固定法の改良
医学部 脳神経外科科学講座	教 授	斎藤 清	基盤研究 (C)	20591710	ポストゲノム時代における良性脳腫瘍のエビデンス・バイオマーカーの開発
医学部 形成外科科学講座	教 授	上田 和毅	基盤研究 (C)	21592291	流入型神経節側縫合による筋肉の脱神経性萎縮防止法の研究
医学部 形成外科科学講座	准教授	梶川 明義	基盤研究 (C)	20592100	顔面成長異常に対する下顎骨の成長制御に関する研究
医学部 形成外科科学講座	助 教	大河内裕美 (渡辺裕美)	若手研究 (B)	20791312	血管吻合部付近の形状と開存率の検討
医学部 産科婦人科学講座	助 教	菅沼 亮太	若手研究 (B)	21791568	顕微鏡精後受精障害症例に対する治療的な人為的卵活性化法の有効性に関する検討
医学部 小児科学講座	教 授	細矢 光亮	基盤研究 (C)	21591330	イルフルエンザ脳症の組織培養モデルを用いた薬剤による病態の増悪及び改善の検討
医学部 小児科学講座	准教授	川崎 幸彦	基盤研究 (C)	20591283	腎糸球体の再生過程における糸球体内皮細胞の役割と再生促進因子の解明
医学部 小児科学講座	准教授	橋本 浩一	基盤研究 (C)	21591394	マウスモデルを用いた臨床分離株解析による RSV 病原性発現の新たな機序の解明
医学部 小児科学講座	博士研究員	佐藤 晶論	基盤研究 (C)	22591187	ヒト上気道細胞モデルを用いた新規インフルエンザウイルス複製機序の解明とその制御
医学部 眼科学講座	教 授	飯田 知弘	基盤研究 (C)	22591946	視細胞・網膜色素上皮細胞機能の定量解析による加齢黄斑変性発症機序の解明
医学部 眼科学講座	准教授	石龍 鉄樹	基盤研究 (C)	21592261	視細胞外節障害時の視細胞応答機構の解明
医学部 眼科学講座	助 教	森 隆史	若手研究 (B)	21791697	弱視症例の網膜断層像形態と微小視野および多局所網膜電図による局所機能の比較研究
医学部 皮膚科学講座	教 授	山本 俊幸	基盤研究 (C)	22591079	強皮症モデルマウスを用いた、皮膚硬化の分子機構の解明と新規治療法の開発
医学部 皮膚科学講座	講 師	尾山 徳孝	基盤研究 (C)	21591470	同一の皮膚細胞外基質を標的とする遺伝性・自己免疫疾患の病態解明と分子治療への応用
医学部 泌尿器科学講座	教 授	山口 脩	基盤研究 (C)	20591884	閉塞が徐々に完成する新しい BPH モデルによる閉塞膀胱の病態とそのメカニズムの解明
医学部 泌尿器科学講座	講 師	六戸 啓一	基盤研究 (C)	22591795	$\beta 2$ 受容体遺伝子多型が女性骨盤底機能障害患者の骨盤底筋収縮に及ぼす影響

所 属	職	氏 名	研究種目名	課題番号	研 究 課 題 名
医学部	助教	石橋 啓	基盤研究 (C)	22591773	腎癌における RNA 干渉による免疫回避機構の解明と治療への応用に関する研究
医学部	助教	榊田 信博	基盤研究 (C)	22591796	膀胱機能維持には、膀胱壁への伸張刺激が必要である
医学部	博士研究員	塩見 馨	研究活動スタート支援	21890205	ラット膀胱蓄尿期における Rho-kinase の役割
医学部	教授	大森 孝一	基盤研究 (B)	22390317	iPS 細胞を用いた頸頸部臓器再生技術の研究開発
医学部	教授	大森 孝一	挑戦的萌芽研究	21659392	気管軟骨組織再生への iPS 細胞の応用
医学部	准教授	小川 洋	基盤研究 (C)	21592162	サイトメガロウイルスによる聴覚障害マカニズムの解明
医学部	講師	松塚 崇	基盤研究 (C)	21592200	遺伝子学的手法を用いたセンナネルンバ ¹ 前転移の術中迅速診断法の開発
医学部	講師	多田 靖宏	基盤研究 (C)	20592024	組織工学的手法を用いた新たな人工気管の開発と気管再生における上皮化機序の解明
医学部	助教	三浦 智広	若手研究 (B)	21791629	咽頭再生を目的としたウサギ食道の再生 - PGA シートによる組織工学 -
医学部	助教	松井 隆道	若手研究 (B)	21791630	サイトメガロウイルス感染による聴覚障害における聴覚・言語発達に関する研究
医学部	助教	鈴木 輝久	若手研究 (B)	21791631	手術時における脂肪組織含有幹細胞群の回収方法と移植法の開発
医学部	助教	横山 秀二	若手研究 (B)	22791618	気道領域におけるヒト脂肪由来幹細胞と多血小板血漿を用いた臓器再生に関する研究
医学部	助手	野本 美香	研究活動スタート支援	21890206	自家軟骨細胞を用いた気管再生技術の開発
医学部	助手	今泉 光雅	研究活動スタート支援	21890207	iPS 細胞を用いた喉頭及び気管軟骨の分化誘導に関する研究
医学部	病院助手	鈴木 政博	若手研究 (B)	22791617	ヒト脂肪由来幹細胞の培養法の確立および組織再生技術の研究開発
医学部	教授	丹羽 真一	基盤研究 (B)	20390315	質量顕微鏡による統合失調症脳の前大脳基底核・ギヤハ系の解析
医学部	准教授	矢部 博興	基盤研究 (B)	19390299	統合失調症における感覚記憶内の時間軸異常に関する研究
医学部	助教	境 洋二郎	若手研究 (B)	22791135	光トポグラフィを用いた空間恐怖を伴うパニック障害患者の前頭葉機能の評価
医学部	助教	板垣俊太郎	若手研究 (B)	22791136	成人期の軽度発達障害患者における聴覚性感覚記憶の障害に関する研究
医学部	助教	石川 大道	若手研究 (B)	22791137	成人期注意欠如/多動性障害の診断における CPT の有用性に関する研究
医学部	博士研究員	池本 桂子	基盤研究 (C)	22591265	統合失調症の病態においてトレスアミンはどうか
医学部	病院長	村川 雅洋	基盤研究 (C)	20591839	術後せん妄の神経化学的研究
医学部	助手	中野 裕子	若手研究 (B)	22791447	Hsp70誘導による周術期臓器保護の可能性
医学部	講師	山本 夏男	基盤研究 (C)	22591103	インターロイキン IL-13 と B-1 細胞による急性感染後免疫抑制機構
医学部	助教	高野 真澄	基盤研究 (C)	22590789	薬物負荷 3 次元心エコーを用いた虚血性心疾患に対する診断法の確立
医学部	講師	中川 恵子 (未永恵子)	基盤研究 (C)	19520577	日中戦争期における同仁会の活動実態
医学部	助教	田中 啓広	若手研究 (B)	22790501	健康診査・国民健康保険・後期高齢者医療制度・介護保険データの突合・分析
医学部	教授	本間 好	基盤研究 (C)	21590314	ペータ酸化を制御するシグナル系の解析
医学部	准教授	本間美和子	基盤研究 (C)	20570137	クロマチンダイナミクスにおける CK2 機能の解明
医学部	講師	北村 拓也	若手研究 (B)	22791294	胆汁誘発性食道癌発生における erbB2 の役割
医学部	准教授	初沢 清隆	基盤研究 (C)	22570189	ファゴソーム成熟を司る SNAP-23 の新奇機能の解明
医学部	助教	橋本 仁志	基盤研究 (C)	22580386	新たなプローブを用いたゴルジ体-小胞体間輸送の解析
医学部	教授	小林 和人	挑戦的萌芽研究	22650065	標的ニューロン活動を促進・抑制性に制御する遺伝子改変技術の開発
医学部	助教	甲斐 信行	基盤研究 (C)	22500294	オペラント行動の発現に側坐核コアの神経伝達果たす役割

所 属	職 名	氏 名	研究種目名	課題番号	研 究 課 題 名
医学部	助教	加藤 成樹	若手研究 (B)	21700354	特定神経経路標識する逆行性レンチンペククターを用いた規床-線条体経路の機能解明
医学部	博士研究員	岡田 佳奈	若手研究 (B)	22730583	海馬関連ネットワークの構築・維持と記憶形成に対するコリン作動性入力の研究
医学部	講師	中川 公一	基盤研究 (C)	21500410	電子スピニング計測による皮膚角層の階層的複合構造の画像評価
医学部	准教授	片平 清昭	基盤研究 (C)	20500375	動物実験の人的エンドポイント構築のためのテレメトリー法によるエビデンス集積
医学部	助手	本谷 亮	研究活動スタート支援	22830057	緊張型頭痛に対する認知行動療法プログラムの開発とその治療効果に関する研究
医学部	助教	浅野 仁寛	若手研究 (B)	22791539	切迫早産における胎盤と子宮筋アデニル酸サイクラゼの役割
医学部	助教	高橋晋一郎	若手研究 (B)	21791460	非脱分極性筋弛緩薬の細胞取り込み機構に関する研究
医学部	博士研究員	林 志保	若手研究 (B)	21791461	高サイトカイン血症における意識障害のメカニズムと麻酔作用への影響
看護学部	教授	中山 仁	基盤研究 (C)	20520443	規範から逸脱した英語表現の語用論的研究-特に従属節の解釈に関して-
看護学部	講師	立柳 聡	基盤研究 (C)	21520823	高齢化コミュニティの暮らしの変化と保健戦略-八丈島と奥会津山村の比較研究-
看護学部	教授	荒川 唱子	基盤研究 (B)	21390569	研究成果を実践活用する方法の開発-看護学におけるトランスレシーショナルリサーチ
看護学部	准教授	増田 元香	挑戦的萌芽研究	20659357	高齢者の睡眠の質を高めるための日内活動の調整と看護介入プログラムの開発
看護学部	助教	鈴木 学爾	基盤研究 (C)	21592811	福島県東北地域における小児救急の課題に応じた看護支援プログラムの開発
看護学部	助教	飯塚 麻紀	若手研究 (B)	21792226	開頭術後の意識障害患者に付き添う家族の看護支援に関する研究
看護学部	教授	中山 洋子	基盤研究 (B)	22390442	精神障害者のセルフケア能力を評価する尺度の開発
看護学部	准教授	大川 貴子	基盤研究 (C)	21592763	重症患者への臨床活用を目的とする不穏兆候スケールの開発とケアガイドの作成
看護学部	准教授	大竹眞裕美	基盤研究 (C)	22592446	救急医療の場での精神的課題をもつ患者のニーズと高度実践看護師教育プログラムの検討
看護学部	講師	三浦 浅子	基盤研究 (C)	22592447	がん患者・家族の悩み相談を受ける看護師の能力開発に関する研究

所 属	職 氏 名	研 究 事 業 名	研究課題番号	研 究 課 題 名
医学部	教授	障害者対策総合研究事業(精神障害/神経・筋疾患分野)	H20-こころ---般-023	反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の確立
	教授	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	H20-循環器等(生習)---般-008	今後の特定健康診査・保健指導における慢性腎臓病 (CKD) の位置付けに関する検討
	教授	がん臨床研究事業	H21-がん臨床---般-010	消化器がん外科診療の質を評価する指標の開発とがん医療の均てん化の推進
	教授	地域医療基盤開発推進研究事業	H21-医療---般-003	医療連携モデルを基盤とした総合診療系医と領域別専門医の必要数算定法と専門医制度の検討
看護学部	教授	地域医療基盤開発推進研究事業	H21-医療-指定-010	看護基礎教育の充実及び看護職員卒後研修の制度化に向けた研究

■ 平成22年度 厚生労働科学研究費補助金採択状況 (研究代表者)

(平成23年2月1日現在)